

1. 昭和62年度総会、講演会等

5月の連休明けの土曜日には毎年お茶の水地理学会総会、講演会等が開催されている。今年度は5月9日がその日に当たり、午後2時から、一般教育2号館102室で44名が集まって始まった。

まず、仮議長の栗原尚子氏（16回生、母校助教授）の進行によって、金子晶子氏（8回生）が議長に選出され議事に入った。はじめに、井内昇総務にかわって浅海重夫教授から開会の挨拶があり、続いて三上岳彦庶務委員が61年度事業報告を、渡辺真紀子会計委員が61年度会計報告を行い、いずれも承認された。ついで、三上企画委員から62年度事業計画が、渡辺会計委員から予算案について説明があり、ともに承認され、総会が終了した。

引き続き、午後2時30分過ぎから浅海重夫教授の司会で講演会が行われた。まず、生井沢幸子氏（22回生、当時本学研究生）の「国際複合一貫輸送と港湾」と題する発表があった。生井沢氏は卒論以来港湾と流通システムの研究に携わっており、今回はこれを①コンテナ輸送システム、②専門船による原材料の輸送システム、③自動車の輸送システム、④国際複合一貫輸送にわけ、産業との関わりを考慮しながらの詳細な解説が行われた。このうち、①の拡大進歩した形の④が現在の国際輸送の新しい傾向で、これはあらゆる関連産業を巻き込んで発達、機能している。貿易に大きく依存しているわが国の輸送手段として、船舶は現在まで重要な役割を果たしてきており、その流通システムについての今後の研究も大いに期待される。

続いて、内藤博夫助教授（当時）が、60年9月から61年7月に文部省在外研究員として滞在したアメリカ合衆国、及びイギリスでの調査をもとに「アメリカ、イギリスにおける日系企業工場の立地」と題する講演を行った。現在日本の抱える最重要課題の一つに貿易摩擦、円高があり、その対応策として大企業ばかりでなく中小企業においても海外進出が活発になってきた。講演では、アメリカ・オレゴン州と、イギリス・ミッドランド地方での実地調査に基づいて、スライドを混じえて

報告が行われた。リコーUKのような成功例もあるが、海外への企業進出には、現地との労働習慣の違いなど様々な課題があることを痛感した。

講演会では熱心な質疑が続き、懇親会は予定より30分遅れて5時30分から、大学東門前のレストラン「由夢羅」で始まった。今年は24名が顔を揃え、ともに食事を楽しみながら、旧交を暖め、また親交を深めた。各人の近況報告も行われ、職場や家庭での奮闘の様子がうかがわれ、会は一層盛り上がった。そしてまたたく間に予定の時間が過ぎ、名残りを惜しみつつ来年の再会を祈念して散会した。

2. 談話会

通算56回目に当る今年度の談話会は、11月28日（土）午後2時から開かれ、学部生2名を含む21名が参加して、新井桂子氏（本学助手）と、井内昇氏（本学教授）の講演が行われた。

新井氏からは、「千葉県山武町における林業の成立と変遷」をテーマに、江戸時代以来行われている林業を中心に、平地における森林と人間活動の関わりについて報告があった。

また、井内氏は、6月から7月にかけて訪問されたアイルランドについて「アイルランドの都市と農村」という講演をされた。まず、都市と農村の歴史的背景と現状について解説があり、続いて、見る機会の少ないアイルランドの風景がスライドによって紹介された。

講演が長時間にわたったため、ビアパーティールームに移ったのはすっかり日も暮れた頃だったが、和やかな歓談の一時を過ごした。

3. 見学会

今年度の見学会は、4月11日（土）に、2回生の瀬戸玲子氏の案内で「利根川の治水と伊能忠敬記念館」をテーマに行われた。10時30分JR成田線佐原駅に集合した14名は、まず、利根川の治水についてのお話を伺うために建設省利根川下流工事事務所を訪れた。

そして、江戸時代の大規模な河川改修から現在に至るまで行われてきた治水のための様々な事業について説明を受け、用水源、交通路として人々

の生活に利益をもたらす一方で、洪水というかたちで大きな被害を引き起こすこともある河川の実態を再認識させられた。現在は、このような専門の機関によって常時物理的なチェックがなされているものの、一方に、住民による水防活動は活発でないという事実があり、これが災害時の被害を拡大する原因になるとも考えられ、ハード面だけでなくソフト面でも整備が必要のように感じられた。

午後は、水郷大橋、両総用水機場、伊能忠敬銅像を見学して、伊能忠敬記念館・旧宅に向かった。記念館では、丁寧に保管されている沿海地図、天橋立図などを見せていただき、その精緻な図法に感嘆し、測量に使われた器具などもあわせて、一同熱心に見学した。

その後、観福寺を訪れて、かつては水上交通路として利用されていた小野川ぞいに、低い屋並みの続く佐原市の町に江戸の昔をしのびながら、春寒の一日の見学会は無事に終了した。

4. ニューズレターの発行

No.11 1987年8月20日(4ページ)

No.12 1988年3月25日(6ページ)

ニューズレター12号には、昭和63年2月6日逝去された本学元助教授(東北大学名誉教授)能登志雄先生の追悼文が、浅海重夫教授ほか4名の方々より寄せられた。

5. その他

(1) 昭和63年度総会、講演会、懇親会は5月7日(土)午後2時から開催の予定である。

(2) 会員数(昭和63年2月21日現在)

学部卒業生会員355名

(卒業生510名のうち)

大学院・専攻科修了会員11名

(修了者20名のうち)

大学院生会員 2名

学生会員 85名

教官会員 5名

特別会員 20名

(会費免除会員5名を含む)

会 員 消 息

地理学教室動向

1. 教官の交替について

自然地理学講座の三上岳彦助教授は62年度前期をもってお茶大を退官し、10月1日から都立大学理学部に転任した。後任人事がすすめられ、決定をみたが、新しい教官の着任は来年度（昭和63年4月）からとなる。

渡辺真紀子助手が職を辞し、62年4月に人間文化研究科に復学した。後任は新井（旧姓浜野）桂子〔昭和62年3月大学院修士課程卒業〕が就任した。

2. 専任教官の担当科目

浅海重夫教授：地質学，日本地誌Ⅱ，地理学演習Ⅱ，土壤地理学，自然地理学実験，地学基礎実験（理学部共通），自然地理学特論Ⅰ（院），同演習Ⅰ（院）

式正英教授：地形学Ⅰ，地誌学，地理学演習Ⅲ，地誌学特論Ⅱ（院），同演習Ⅰ（院）

井内昇教授：集落地理学，都市地理学，地理学演習Ⅰ，人文地理学特論Ⅰ（院），同演習Ⅰ（院）

内藤博夫助教授：地理学概説，経済地理学Ⅰ，日本地誌Ⅰ，地理学演習Ⅲ，経済地理学Ⅱ，地誌学特論Ⅲ（院），同演習Ⅱ（院）

三上岳彦助教授：気候学Ⅰ，陸水海洋学，自然地理学実験，地理学演習Ⅱ，自然地理学特論Ⅲ（院）

栗原尚子助教授：地図学演習，外国地誌Ⅰ，地

理学演習Ⅰ，地理調査法，地理学（一般），人文地理学特論Ⅲ（院），同演習Ⅱ（院）

久保幸夫講師：情報学Ⅰ（一般），情報学Ⅱ（一般），情報学演習（一般），情報学特講（学部共通），情報学講義演習（学部共通）

3. 非常勤講師とその担当科目

西川 治（立正大）：地理学概論

米倉伸之（東大助教授）：地形学Ⅱ

中島義一（駒沢大教授）：歴史地理学

高阪宏行（日大助教授）：計量地理学

高橋伸夫（筑波大助教授）：外国地誌Ⅱ

菊池一雅（早大教授）：地理学特講Ⅳ

大友 篤（宇都宮大教授）：地理学特講Ⅱ

三上岳彦（都立大助教授）：気候学Ⅱ，自然地理学特論Ⅱ（院）

鈴木陽子：地図学

寺坂昭信（流通経済大教授）：人文地理学特論Ⅴ（院）

門村 浩（都立大教授）：地誌学特論Ⅴ（院）

滝沢由美子：写真地理学

斎藤 毅（東京学芸大教授）：地理学（一般）

川崎逸郎（千葉大助教授）：地学〔地誌〕（一般）

4. その他

井内昇教授は62年度からお茶大附属小学校長に就任した。